

タウンミーティング議事録

1 日 時

令和2年10月18日（日）午後1時30分から3時まで

2 場 所

南流山センター 大ホール

3 参 加 者

（1）特別職等

井崎市長、石原副市長、田中教育長、志村上下水道事業管理者

（2）部局長等

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、
秋元子ども家庭部長、石野まちづくり推進部長、石井土木部長、
菊池教育総務部長、前川学校教育部長、
大塚教育総務部次長、宮本学校教育部次長、上原学校教育課長補佐
石川学校教育課主任主事、佐々木学校教育課管理主事

（3）事 務 局（秘書広報課）

若林課長、影山課長補佐、三好係長、小林主事、
金子会計年度任用職員、須賀主事（記

4 来場者数

142名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

この地に住みまして40年が過ぎました。

小中学校の問題について、ご説明をいただきましたが、なぜ移転するのが非常に疑問に感じます。

小学生の児童が増えて今の小学校では収容できないという非常に簡単なことで中学校を動かすということですが、あれほど大きな木地区の区画整理を行ったので、人口が増え、子どもが増えるのは当たり前のことです。

40年前この区画整理は県下最大の区画整理と言われており、非常に注目されていました。職員の方でも知っている人は少ないかと思いますが、計画の中では小中学校の予定地も設定されていました。このことは、もしかしたら市長もご存じでないかもしれません。

そんな中、小中学校の予定地がいつの間にかマンション予定地に変わってしまったことに、当時非常に違和感を覚え、猛烈に反対したのですが、市に押し切られてしまいました。

40年後にまたこのような安易な考えで学校を移転させるということになるかもしれないですし、市長はどのようにお考えになっているのでしょうか。

木の区画整理時に学校用地を確保することは当たり前のことであり、あれだけの大規模な区画整理をやっておきながら学校用地を確保しないで、今の小学校がいっぱいになったので中学校を移転し、そのあとに小学校を作ろうという安易なことは行政のやることではないと思います。

その辺のことを市長はどのようにお考えになっているかお答えいただきたいと思います。

A 市（市長）

木地区の区画整理については、ご存じかと思いますが、二十数年前からスタートしました。そしてその時にどういう用途にしていくか、あるいは人口規模がどのくらいになるかということを計算しており、17～8年前の合計特殊出生率は1.19という数字でした。合計特殊出生率というのは一人の女性の方が一生の間に産む子ども数の割合のことですが、流山市は1.19と全国平均、千葉県平均よりもはるかに低い状況でした。

そういった数字と宅地面積で計算をしていくと、小学校、中学校を増築することで対応できるという考え方で推計をしていました。ところが、先ほどお示したように、大変喜ばしいことなのですが、児童数が大幅に増加して

きました。

流山市の場合は合計特殊出生率がこの12～3年で4割増加しています。全国平均、千葉県平均も大きく上回っており、少子高齢化の中で大変喜ばしいことなのですが、4割も出生率が上がったということが大きく影響し、子どもの数が増えているということです。

そこで、小学校をどこに建設するかということについて、昨年10月のタウンミーティングにおいてご案内させていただきましたが、候補地として木地区の調整池に建設することができないかと調査を行いました。その結果、工事費がかなり大きいということもありましたが、木地区の調整池では工期が間に合わないということがわかりました。令和6年4月に小学校を開校させなければいけないのですが、木地区の調整池への建設がこれに間に合わない状況の中、今年3月に東洋学園大学と暁星国際学園間の交渉がうまく進んでいないという話を耳にしました。そこで、市は東洋学園大学に交渉のチャンスをいただけないかとアプローチしました。

木地区の調整池には水鳥が来たりと、風光明媚なのですが、そこに小学校を作ることは、令和6年4月の開校に向けて工期的に間に合わないのもう一つの案として、中学校を東洋学園大学に移し、南流山小学校の隣に新しい小学校を作ることとしました。

中学校を東洋学園大学に移すにあたり、自転車通学を認めてほしいという要望に加え、その通学距離はどれくらいになるのかといったご質問を多く頂戴していましたので、冒頭の説明をもってお示しさせていただきました。

木地区の区画整理は流山市内の他の区画整理地から比べると面積的には相対的に大きいものではありません。小学生や中学生が増えることは想定していましたが、新たに学校が必要になるというような推計ではありませんでした。しかし、児童・生徒数が予想以上に増えて、あるいはこれから増えていくということがわかりましたので、令和6年4月の開校に向けてこのような対応をしていくということです。

Q 市民

今の答えだと、答えになってないと思います。

行政の進め方として、なぜ生徒数が増えることが見込めなかったのかということを知りたいのです。

A 市（市長）

先ほど申し上げたように宅地面積からは児童・生徒推計というのはできません。ただし、合計特殊出生率というのは過去の推移はわかりますが、統計的に推計はできません。

教育委員会でも毎年4月にデータを0歳から計算し、小学生に上がってくる人数、これから生み出される、あるいは造成される宅地の面積を計算して推計をしてきたのですが、1つのご家庭に生まれるお子さんの数が増えて来ています。もう一度申し上げますが、これは残念ながら科学的、統計的な推計はできません。

したがって、今までは学校の増築で対応できると考えていたところでしたが、その予想を見童数が大きく上回るという状況になったということです。

Q 市民

何か短絡的な答えで、まだ少しよくわかりません。

なぜ南流山地区から中学校が無くなってしまうのかということでしょうか、これは大変なことだと思いますし、近くにある中学校が無くなるということをごどのように考えているのですか。過疎化でどこかと統廃合するというなら仕方ないと思いますが。

A 市（市長）

廃校ではなく、同じ学区内での移転となりますので、お間違いないようお願いいたします。

Q 市民

先日、うちの息子が車に引かれました。なんとかかすり傷で済みましたが、8m車に飛ばされました。

そのようなこともあり、中学校が遠くなるからには、安全対策をしっかりとってもらいたいです。冒頭の説明でも、カメラを多く設置したり、不審者の情報を共有すると言っていましたが、そのような安全対策をしっかりとできるのでしょうか。

また、運動神経などの観点から、子どもが自転車に乗れるのかという不安があるので、自転車の講習会などもしっかりとってもらいたいです。自転車に乗れない子どももいるので、南流山駅ロータリーから中学校まで無料バスを

出してもらえればいいなと思います。

安全に対してすごく心配していますので、以上のことについてどのように考えているのかよろしく願いたします。

A 市（学校教育部長）

子どもたちの安全対策が一番気をつけなければならないことだと考えています。冒頭でも、自転車の通学路と歩行者の通学路についてお示しさせていただきましたが、今後も引き続き、安全対策については、警察や市役所の部局内でも十分に詰めさせていただいて配慮してまいります。

不審者についても、今はカメラで撮影するというタイプの不審者も増えているようですが、そういった対策についても、警察等と連携を図り、パトロール等も強化してまいります。

また、自転車通学者が多くなるので、自転車の乗り方講習等も学校で実施してまいりたいと思います。

Q 市民

シーズンで出している児童数生徒数推計を見て測定したところ、令和13年には南流山中学校の生徒数が1,500人から1,600人になるというのが導きだすことができます。そうすると、令和11年頃にはまた学校を作る必要性に迫られるということがわかりました。令和6年に間に合わなくてもやはり学区の近辺に学校を作っていた方がいいのかなと思っています。

例えば流山市内でなくても松戸市や坂川のあたりなどに、松戸市や地権者から土地を買ったり借りたりして中学校を作るという可能性は追及できないでしょうか。

南流山地区に学校があることで、近隣のお子さんも安心して近くに通うことができ、洪水が起きた際に避難もできるようになってくると思います。

A 市（学校教育部長）

令和11年頃のことということでお話をいただきましたが、教育委員会では6年後の推計を出しています。

なぜ6年後かというと、文部科学省から国の学校建設における補助をいただけるのがおよそ3年後の推計ということですので、教育委員会としては、まず3年後の推計値を出し、さらにその先の6年後までの想定値ということ

で推計を出させていただいています。

今ご説明いただいた想定値は、生まれている子どもたちや小学校の子どもたちを足した数が大体このぐらいになるのではないかとということが出てきた数字かと思いますが、教育委員会でも今お話していただいたような数値になるだろうということは認識しているところであり、東洋学園大学に移転したとして、10年先でも十分にやっていけるという想定はもっています。

坂川の方に建設するといったご提案をいただいたことについては、また今後検討する余地はあるのではないかと考えます。

A 市（市長）

補足させていただきます。

松戸市地域内での学校開設が可能かどうかについては、市としても検討いたしました。

しかし、地権者の方が流山市内に土地を持っている場合は、色々な都市計画の手続きもかなりスピーディーに行えますが、市外の自治体となると、そちらにお願いをして市外の自治体のペースでことが運ぶということになりますので、流山市の方でどうこうするという範囲を超えてしまい、やはり期間が間に合わないだろうと考えられます。

それから、市外に学校教育施設を設置することについてですが、50年前は光が丘小学校が流山市にあたり、流山市立八木北小学校が柏市にかかっていたりということがありましたが、現在は基本的に市内に学校教育施設を作っていますので選択肢からは外しました。

そして、東洋学園大学を購入する面積は5ha強を予定していますが、流山市内の学校面積は大体2haくらいであり、そういう意味でもやはり東洋学園大学は余裕がある敷地であると考えます。

Q 市民

井崎市長にお伺いいたします。

前回のタウンミーティングで説明会を開いてくださると断言してくださったのですが、いつどのような形での開催をお考えでしょうか。これはタウンミーティングなので説明会ではないですね。

A 市（市長）

タウンミーティングでこのテーマを話し合う時間をとっておりますので、これがその説明会に当たると考えています。

Q 市民

そうしますと自分からこのタウンミーティングあることを探して参加しない限り説明を聞けないということですよ。

知らない保護者もまだたくさんいて、その保護者に周知する努力義務があると思うのですが、タウンミーティングで説明しているから十分だとお考えでしょうか。

A 市（市長）

タウンミーティングとして来たら、たまたまこの学校移設の話だったというわけではなく、今回のタウンミーティングについては、広報紙やホームページでも小中学校の移設について話合うということの特記したうえで、市民の皆さまに周知しています。

Q 市民

では、前回格好よく宣言していただいた説明会を開催しますというのは、このタウンミーティングのことだったということでしょうか。

A 市（市長）

議会中に、この小中学校の移設計画について説明をしまして、東洋学園大学との話合いも進んできましたので、今回タウンミーティングを利用していち早く皆さまにお知らせし、ご意見をいただくという判断をいたしました。

Q 市民

あともう一点、保護者からの要望書を取りまとめたのですが、読んでいただけましたか。

この移転にあたって、市議会議員が動いてくださって要望書を保護者の方から取りまとめたのですが、読んでいただけましたか。届いていますか。

A 市（市長）

私のところにはたくさんの要望書が来ておりますので、今確認します。あるいは後ほどお答えさせていただきます。

Q 市民

その要望書の中で一番多い意見があったのですけれども、その意見を把握していらっしゃるでしょうか。

移設にあたっての保護者からの一番多かった意見を市長は把握していらっしゃるでしょうか。

A 市（市長）

一番多いというのはこれ一番という意味ですか。

Q 市民

はい、一番多い意見です。

A 市（市長）

校舎の移設に伴い、生徒の授業に遅れが生じないように、あるいは教育格差が起こらないようにということです。

Q 市民

いえ、違います。一番の問題はもちろん安全に関することです。

一番多かった意見は、スクールバスを出してほしいという意見でした。さきほどご意見があったように、運動神経の観点から自転車に不安のある子どももいます。雨の日、風の日、雪の日、台風の日もあります。大学の頃も南流山からロータリーバスが出ていましたが、大学生でさえバスで通っているような距離なので、どうにかスクールバスを出していただきたいということが一番多い要望ですので、そこを覚えておいていただきたいです。それが私たちの一番多い意見であるし、最低条件だと思っています。

ここで事例を作ってしまうと、また同じようなことが起きた時に、あそこはバスなのに何でこっちはやらないのかという意見が出ることを恐れているのかもしれませんが、こういう状況はなかなかないことだと思います。

400人～500人の生徒が自転車で移動する状況は、すごくレアなケー

スだと思いますし、目標は子どもの安全を確保するところで市も保護者も一緒だと思います。市長が考える安全と、私たち保護者が考える安全についてすり合わせをして、納得したうえで、「ここまでやっていただいてありがとうございました」と言いたいのです。

不安のある中で、私の娘もちょうど中学校1年生になるとき開校の年にあたってしまうので、大丈夫かなと毎日不安ですが、やはりバスを出していただければ安全です。気持ち的にもすごく楽になりますし、子どもの事故も減ると思います。

なので、そこをどうにか、検討ではなくて前向きに進めていただきたいと思っています。よろしくお願いします。期待しています。

Q 市民

示された通学路は、交通量が多いです。市というのは、リスクをどう見ているかわからないです。「こういうときにリスクはこうあります。だからこうしました」とわかりやすく示してください。

一般的な話ですが、災害の観点からも今回の決定はリスクが多いと思います。これは学校だけの問題ではないので、市はリスクマネジメントをしっかりと行ってください。リスクヘッジをしてそれに対してどのように対応したのかを市民に示してください。それをリスクコミュニケーションといいます。

まず第一歩として、災害などについて、リスクマネジメントを取り入れて市を運営して行ってください。

Q 市民

私の発言は個人ではなくて、移転先になる鱈ヶ崎団地を含む鱈ヶ崎地区社協、鱈ヶ崎小学校区全体の社会福祉協議会の中でまとめた意見として代弁いたします。

東洋学園大学を小中学校の移設の受け入れ先とすることについて、違和感はありません。東洋学園大学が無くなってしばらく経っていますが、やはりまちとしては今ひとつ活気がほしいと考えています。東洋学園大学は地元のためにずいぶん協力してくれましたし、学校組織が出来てくれれば、同じようなサービスが期待できるのではと思っています。例えば、文化祭の会場として体育館やグラウンドを貸してくれる、図書館も市民に貸してくれる、地域の緊急避難場所にもなってくれるといった具合です。地域に開かれた学校

であったものが、今は閉校状態にあり、それらは一切使えない状態にあり勿体なく感じます。

ここであえて付け加えさせていただきたいのですが、鱈ヶ崎団地を含めて鱈ヶ崎地区には福祉施設が一つもありません。なぜ無いのかわかりませんが、そういうことも抱き合わせて考えないといけないと思います。

それと先ほどもご指摘がありました、通学路の整備が不可欠であり、絶対条件だと思います。配布資料をご覧くださいなのですが、先ほど市の方からご紹介いただいた主要通学路の地図ですが、私が居住しているのは4番の地域です。ここは大変狭隘な道路が多く、4番の通学路は特には問題があります。補助的な道路として点線で書いてありますが、坂川沿いにしっかりした道路を整備していただいて、徒歩の通学者もここで吸収していただきたいです。1番となっていますが、かなり迂回することとなります。3番の鱈ヶ崎駅前の道路は大変狭いです。ここに大量の自転車が来たら危険です。

当地の自治会としてはゾーン30の指定も併合しています。警察当局に申請をしている状況にあり、道路の問題さえ片付けば、かなり事態は進展すると思いますし歓迎されると思います。

Q 市民

さきほど、40年前の区画整理時の小学校中学校用地がいつの間にかマンションになってしまったっという意見が出ましたが、その用地に住んでいます。その時は市のナンバー2の手が後ろに回ったという話を聞いています。

さきほど市長が合計特殊出生率という言葉を使われましたけども、これは適切ではありません。それは全体の人口についていう場合のことであって、どういう意味で使うかをよく調べてください。

私はよく四半世紀前人口推計について論文書いていました。21世紀にはいつてからは少し改善されましたが、厚生省がいかに人口推計をいい加減に作っていたのかを知りました。

根拠となる人口の推計がどれだけ増えるかということについて、チェックしますので、資料を全部私にお預けください。

行政というのは、何かをするために嘘をつくというものだと、私自身は捉えており、子どもたちが増えることについては、しっかりと把握しなければいけません。

それからもう一つお伝えしたいのが、バブルがあるということです。木地

区の方が増加しているのは一時的なことであり、これに対して建設投資をするというのが正しいかどうか、他に手はないのかということについて、当然考えなくてはなりません。

しっかりと未来を見て、その上でこれぐらいの数値になるという判断についての資料をお預かりして、正しいかということを確認させていただきたいと思います。

資料の方を提供させていただけるかどうか、お返事いただきたいと思えます。

A 市（学校教育部長）

市民の方で推計に詳しい方がいらっしゃることを心強く思います。

教育委員会が出している児童生徒推計値及び想定値6年間のものについては、市ホームページ等にも掲載していますので、ぜひとも、その資料をご覧ください・・・

（市民より、ホームページの情報だけではわからないという意見あり）

A 市（学校教育部長）

細かなデータのお渡しを希望ということですね。

お渡しできるかについては、少しお時間いただいて検討させていただければありがたいと思います。

（市民より、根本的に正しいところに関わってくるところだからお願いしたいという意見あり）

A 市（学校教育部長）

ありがとうございます。少し検討させていただければと思います。

A 市（市長）

補足させていただきます。

流山市で毎年、学校の児童数や生徒数の推計というのはあくまでも人口、そして、下から上がってくる人口を毎年確認しているところです。それに加え、今回の場合は、この木の区画整理地域の宅地面積を計算しています。

私が先ほど合計特殊出生率と申しましたが、合計特殊出生率は過去の推移はわかりますけども今後は推計できないので・・・

(市民より、合計特殊出生率という言葉の使い方が間違っているという意見あり)

Q 市民

流山市には13年前から住んでいますが、このたびの中学の移転は前提として、こちらにある図書館が移転して児童センターと兼用の建物ができるといいう計画が進んでおり、8月にその説明会が行われたので参加しました。

その説明会では、お盆前で大変少ない人数しか出席せず、その時に私が質問したことと重複するのですが、まだ回答をいただけていませんので、この場にいる市の方々も、その質問自体をまだご存じない方も多いのではないかと思います。

私がその時にした質問は、現在南流中学校の大きいポプラの木があるのですが、それを伐採する前提の設計なので、その木を活かした設計にならないものだろうかということです。例えば、公園の方に少し移動することで、どちらか1本だけでも残せないのでしょうか。

また、3階と4階が図書館ということですが、1階には大きいカフェが設置される予定で、そのカフェが図書館の本を読みながら利用できるカフェということだそうです。新しいコンセプトだということですが、そのカフェが入口に設置されて1階の半分のスペースを占めています。

私は親に物を食べながら本を読んではいけないと教育されて育ちました。

市の図書館の本を読みながら飲食ができるということがそもそもおかしいのではないのでしょうか。

市の設備であるにもかかわらず、民間の業者が入り一番いい場所に広いスペースを占めて営利目的の活動をする、そしてそこは営業が夜の9時までできるとか、なにか本末転倒ではないかなと思います。そもそも、子どものための施設なので、南流山で育った子はちゃんと社会的基本が身についたそういう子に育ててほしいですし、きちんとした子を育てられる教育や躾をしたいと思います。

安全性はもちろんですけども、そういった基本的な人の躾みたいな場として、公共の場を使ってほしいと思います。

私は説明会の場で質問もしましたし、市役所にも行き、電話でも聞きましたが、現在のところそのカフェの設置やポプラの移転についての回答がありません。市のホームページに回答が出るとか、1回目の回答というものが届きましたがA4用紙1枚だけで、私の意見については載ってがなく、10日頃に更新されるホームページに載ると言っていたのですが、パソコンの調子悪くて見るができなくなってしまい、結局どうなってしまったのかわかりません。

図書館の移転に関する事、私の質問への回答はどうなってしまったのかという2点についてお願いします。

A 市（子ども家庭部長）

まず、回答が遅れてしまっていることに関しまして、お詫び申し上げます。これは、ポプラの木の解決について時間を要したことから回答が遅れてしまったものです。

また、いただいた質問への回答については、ホームページに掲載するか、再度皆さまにご案内申し上げるか、これから検討してまいりたいと思います。

ポプラの木の移設については、2本で一千万円を超える金額であるとの見積もりが出ました。ポプラの木の移設に、これだけのお金を使うことはできないという結論になりましたので、この2本については伐採をさせていただく方針です。

それから、カフェのあり方ですが、これについては様々な読書の楽しみ方があるかと思えます。市としては、カフェでコーヒーを飲みながら読書に親しんでいただくというコンセプトを持ち、図書館を作っていきたいと考えています。

1階のフロアにカフェを作った理由としましては、横に小さなお子さんが遊べる公園があることから、その公園と一体的に使っていただくために、1階にある方が便利だろうという考えのもとに作ったものです。

これらをまとめまして、また後日ご連絡申し上げたいと思います。

Q 市民

今はまだ結論が出ないと言っていたのですが、今一千万円という見積も出たという話もありましたし、ある程度回答が見えているのではないかということと、回答遅れているとしても、1回目の回答を私にくれたのですから、二

回目の10日のホームページに掲載する件についても、もう一回くれてもいいのではないかと思います。

カフェについては、公園との一体化を図っているとのことですが、よく図面を見てください。カフェは北で公園は南なので一体化というのはおかしいと思います。

本を見ながら読書に親しんでというコンセプトですが、それは価値観がありますし福利厚生のための市民のお金使っているのにおかしいと思います。

A 市（子ども家庭部長）

ご報告遅れたのは木の伐採等で時間がかかってしまったため、ご報告する機会が遅れてしまったということです。今後、回答をまとめましてご報告させていただきたいと思っています。

カフェ等の使い方については、市としての考え方もあり、北にあっても南にあってもそこは一体的に使えると考えています。

A 市（市長）

先ほどの質問の中で、「飲食ができる」とおっしゃっていたと思いますが、「食」についてはありません。2階と3階の図書館、児童館で「飲」はあるかもしれませんが「食」はありませんのでそこはお間違いないようお願いいたします。

まだカフェのメニューについては存じ上げないのですが、飲み物と軽い食べ物が出ると思います。ただ、図書館への持ち込みというのは、飲み物だけを考えています。先ほどのご意見では、飲み物も見直した方がいいということですね。

（市民より、飲をしながら本を読むのはおかしいという意見あり）

A 市（市長）

飲食ではなくて、飲をしながらということもですね。それは今までもご意見をいただいておりますが、流山市としては新しい形の図書館を目指していきたいと考えています。

Q 市民

今、私の地区では75歳以上の方が800人以上います。認知症になって自宅でも安心して暮らしたいという意見を多く聞きます。

今必要なことは、介護保険のガイドブックに、認知症の安心ガイドブックです。これは現在市でも作成していただいていると思うのですが、配布については研修会や勉強会を通じて配布するという形です。

勉強会等で配布しているとのことですが、ほとんどの人はそのことについて知らなく、勿体ないと感じます。

また、鯖ヶ崎地区は福社会館もなく、勉強会を行うための場所取りも難しいです。ガイドブックはわかりやすく出来ており、専門的な説明が必要な場所はほんの一部しかありません。

どんどんガイドブックを配布して、多くの方に読んでいただけるようにしてほしいです。

A 市（健康福祉部長）

ガイドブックは1人1人に配れるだけの部数を確保できていないため、説明会等を通じて配布させていただいています。こちらについては、一冊でも多く確保し、多くの方々に読んでいただけるように工夫してまいります。

また、説明会等の場所については、鯖ヶ崎地区からは少し遠くなってしまうかもしれませんが、福社会館などでお集まりいただければ職員が伺わせていただき、パンフレットの配布や意見交換を行わせていただきたいと思いますので、今後とも連絡を取り合いながら進めさせていただければと思います。

Q 市民

情報公開についての質問です。

午前のタウンミーティングで市長は、流山市は情報公開に優れているとの発言がありましたが、先ほどの中学校の移転の件などについて各部長の方々の回答をお聞きしていても、ホームページをご覧くださいというような回答が多く、これが本当に情報公開の上位にいる市の回答なのかなと疑問に思います。

新型コロナウイルス対策の13億円の使い道や、9月16日と30日に踏み切りで起きた人身事故の件など、どのような形で人口約20万人の市民に情報を届けられているのかというのを伺いたいです。

A 市（市長）

情報公開については、全国オンブズマン連合協議会というものがあり、全国で情報公開制度がかなり進んできたため、ここ数年は調査が行われていないのですが、流山市はどんどん情報を公開していこうという考えのもと、当時ではどこの市でも公開していないような情報についても先陣を切って公開していましたので、長い間このランキングの全国1位に入っていました。

情報公開について理解のある市長が就任している市については、パブリックコメント等を通じて意見を集めたりしていますが、流山市では制度として確立しているので、このタウンミーティングやパブリックコメントのように市民の皆さまのご意見を収集する環境は整っています。

あとは、いただいた意見に対してどのように対応していくか、どう政策に反映していくかですが、例えば、本日皆さまから頂いた意見でも色々な考え方があります。全てのご意見を反映させていくことはできませんので、ご意見について判断し、なぜその判断をしたのかという説明をしていかなければいけないと思います。

皆さんが思い描く提案のとおりそのままとはいかないと思いますが、なぜこのような計画としたかという説明についてはこれからもしっかりと行っていきたいと思っています。

Q 市民

東京新聞に載った避難所用の600張のテントについて、すごく感心しています。

それに合わせて地域新電力（災害時の強み）という記事をみたのですが、これは市と民間の会社で電力会社を作り安定供給を図るという取り組みであり、銚子市などで行っているようです。流山市でもこのような取り組みを行ってはどうでしょうか。

また、どこかの市で自転車の保険加入が条例化されていたかと思います。私は条例化まではどうかと思いますし、この前の議会でも話題が出たかと思うのですが、自転車保険に入った方は駅前の駐輪場を利用する際に割引するようなサービスを行ってはどうかと考えています。

この2点についてお願いします。

A 市（副市長）

地域の新電力について、現在流山では、東京電力からしか購入できない電気についてはそこから購入しているのですが、その他についてはエネットを通じて電力調達を行っており、この地域電力の活用は、流山市では震災前から取り組んでいます。

新しく会社を作るということについても現在、視察を行っている所です。地球温暖化の対応もあるので、個人的には早い段階でエネルギーの地産地消ができればと考えており、風力、水力、地熱のような再生エネルギーを活用し公共施設の電気を賄えれば理想的だと考えています。

しかし、これはすぐに出来るというものではありませんので、今後検討させていただきます。

自転車の保険に加入した方を割り引くかどうかということは条例事項となりますので、これから議会とも意見交換をしてまいりたいと思います。

Q 市民

昨年10月のタウンミーティングで当時問題となっていたいじめの問題について問いました。その際に、きちんと調査して市民に説明するように申し上げまして、「記者会見も含めて前向きに対応する」と言っていただきました。

先ほどから情報公開の話もでていますが、全ても問題に通底していることがあります。それは市民にしっかりと情報が提供されていないということなのです。

今、市のホームページを探しても中間報告に関する記載はなんらありません。私は違うところから第二次中間報告書を手に入れました。最終的な報告書はいつでるのか、そして、この問題に対する対応はどのようにとられたのかということを問いたいと思います。

この第二次中間報告書でどのような指摘がされているのか、皆さんに聞いていただき、考えていただこうと思っています。

「A、被害児童をいじめから守ることが事実上放棄されたと表記せざるを得ない」このように指摘されています。それから「枠組み整備だけでは不十分である」こういう指摘を、すでに第二次中間報告書で出されています。

こんな指摘があればすぐにでも市は対応しなければいけないと私は考えます。最終報告書が出なくても、やらなければいけないことはたくさんあると

思います。

私の子どもは来年から中学に入りますが、今回、中学生2名の子どもが踏切で命を失いました。この子たちが希望を持たずに、自分の命を断ったということに対して、多くの方が動揺していると思います。本当に市は頑張っているという姿勢を見せて、保護者も一緒に、先生も一緒に、なんとか子どもたちを良い環境の中で大人にさせてあげる、このような責任を皆でとろうという姿勢がないことに、多くの保護者達は心配しています。

しかしこの一年間、このひとつのいじめに対してすら、市がなにをやっているか分からないですし、伝わってこないです。

今年度から教育長が変わりましたが、私は前任の教育長にはきちっと説明をしていただきたいくらいの気持ちを持っています。そして、新教育長には前教育庁から引き継ぎをしていただきたいです。

昨年10月のタウンミーティングでの「器は新しいが中身は古い教育をやっている」という指摘は極めて鋭い指摘だと思います。

私は毎年小学校の保護者に行われる全アンケートを見せていただいています。ぜひとも、保護者の様々な意見、様々な知恵の詰まったこのアンケートを、教育長も市長もしっかりと目を通してほしいです。これだけの問題が起きているので、それぐらいしてもいいと思います。

中学校も、流山市は管理教育で有名な市であり、変化はしてきていますが、これからの未来、本当に対応できる教育となってくるのでしょうか。

すでに御存じかと思いますが、「校則をなくした中学校、世田谷の試み」。こういった先進事例を皆で学んでいきながら、多様で、技術的に変わってきている社会の中で子どもたちを育てられるのかということについて、私は教育委員会だけで考えてもろくなことにならないと思っています。

子供を中心に、先生、地域、保護者、専門家を含めて皆でしっかり考えて変えていく時期にあるのではないのでしょうか。

最終報告書はいつ出てくるのか、そして、この一年間どのような対応をとられてきたのかをしっかりとお聞きしたいと思います。

A 市（学校教育部長）

このいじめの問題の報告書については、中間報告とはいえ、まだ非公開の状態となっています。お話できればご理解いただける部分もあるのですが、個人の情報や、被害者等の許可を得てお話ししないといけないこともあります。

ので、こういった場で全てのやり取りをご説明することは申し上げにくいところはございます。

その辺をご理解いただき、公開できる時にはしっかりと公開してまいりたいと思います。

(市民より、それは個人情報や被害者の気持ちを盾に教育委員会が隠蔽しているのと同じだという意見あり)

A 市(学校教育部長)

おっしゃりたいことは十分に理解できるのですが、なかなか公開できないということは、公開についての許可が得られていないと、そのようにご理解いただければと思います。お話できる機会が来ましたら、しっかりと話し、公開していきたいと思います。

もうしばらくお時間をいただきたいと思います。

Q 市民

もうすでに一年経っているのですが、いじめについてはこの被害児童の問題だけではありません。だからこそこうやって皆色々考えているのではないですか。

個人の事情があるとはいえ、行政の対応について示さないということは、自らの問題を隠蔽することそのものです。

はっきり申し上げますが、だから信頼されないのですよ。一年も経っているのであれば、市の対応策は出てしかるべきですし、それを実行に移すのにしかるべき時間が過ぎています。

A 市(市長)

報告書の出る、出ないに関わらず、いじめ問題に対して流山市としてどうするかということについては、教育委員会の中にいじめ対策室を作り、スクールロイヤーを採用し、先生や生徒たちに対してもいじめに対する啓発活動を続けています。

市では、いじめに関して、生徒や先生の理解を深めることと、万が一いじめが発生した時にどのような行動をとるべきなのかということについての啓発教育、そして、実際にいじめを先生が認識した際に、学校としてそれをど

のように指導していくかということのサポートのためにスクールロイヤーを採用しています。

Q 市民

眉山市長時代の最後の時期には流山市の人口推計は20万人だと言われていました。そして、井崎市長が当選されてから18万人に修正されました。今は20万～21万の間に上方修正されているのだと思いますが、なぜこういうことになったのか。

さきほど申していました出生率のこともあるのかもしれませんが、おたかの森地区の小山小学校もそうですが、人口が増えるのになぜ3～4階建てではなく2階建てとしたのでしょうか。また、おたかの森小中学校についても、あのデザインにして合計階数は3階建てとなっていますが、実際は2階です。おたかの森小中学校を作るときは一緒の小中学校を作ることで20億円節約できるということで我々も賛成したのですが、また新たに学校を作らなくては行けないということで、余計な税金を使わなくてはいけなくなりました。まずそれを総括してもらわないといけなかなと思います。

あと、南流山駅の南口のところの街灯が15本あって5本しかついていません。電気代がもったいないということでしたらそういう風にしたうえで消しておいてほしいと思います。

A 市（市長）

児童、生徒の推計をしていくときの前提条件が、小山小学校建設地は大変少なめに推計されていました。推計したものが毎年上方修正されていくという事態が起きたので、前提条件を抜本的に見直しましたが、以降は誤差の範囲で推移していますので、今はかなりの的確な推計になってきたと思います。

ただ、当時のデータでは推計値の数値は低めであり、そのデータからではそのような読みしかできない状況でした。その後にはたくさんのお子さんが生まれ、また移ってこられたということで、それに対しては予算をしっかりと計上し、教育の質について引き上げていき、流山で育つお子さんの環境を整えていくことが市の使命だと考えています。

A 市（土木部長）

街灯については、現地の詳細な場所の確認も含めて、この後少しお話をさ

せていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

Q 市民

私がおおたかの森小中学校、小山小学校の建設で一番失敗だったと思っていることは、デザイン優先でなく、面積をもっと縦方向に使うべきだったということです。そうすることでもっと拡張性に幅が出てくると思い、今回このような意見を言わせていただきました。よろしくお願いいたします。